

1

目の前の課題・ゴミについて

ゴミは、今もこれから将来に向けても、ずっと無くなることのない課題です。

2020年の夏の間、わたしたちは下北沢リンク・パーク（駅広部会内のプロジェクト）の一環として、下北沢駅前のゴミ拾い&声かけに取り組みました。多くの人、行き交い集まる駅前の仮設通路部分は、連日たくさんゴミが捨てられていました。主に終電に近い時間帯に、ゴミ集めをし、その場に集まっている多数のみなさんに、ゴミ持ち帰りをお願いする声かけを続けました。

現在、駅前のゴミ処理は、世田谷区から派遣の清掃業者、町会や、その他有志のゴミ拾いのグループなどが関わっています。わたしたちのゴミ拾いの様子を見て声をかけてもらえる方も多くいます。駅前のゴミの惨状を心配する意見を多くいただきました。

世田谷区の派遣業者さんは、主に喫煙所や駅側の公衆便所の清掃を担っていて、通路部分に関しては業務外にもかかわらず、気がつくと掃除してくれているそうです。そして、市民の側からの清掃はすべてボランティアです。集まったゴミの処理については、個人の家庭ゴミとして持ち帰るなど苦しんでいます。わたしたちの集めたゴミの処理は、リンク・パークの活動の延長として一番街商店街や、世田谷区街づくり課にも協力していただいています。これらは小規模な範囲だから可能なことです。

ゴミ拾いについて、地域活動として街のみんなで取り組むのは当然望ましいことですが、かといってこれを今後もボランティアの市民に委ねてよいのでしょうか。公共空間の維持のために、しっかりした仕組みをつくるのが大切だと考えます。そして、そのためにはゴミ拾いと処理の費用をまかなっていかねばなりません。

広場を使い維持していくために、広場でその維持費用を捻出していくことが必要ではないでしょうか。

2

目の前の課題・イベントについて

現在、下北沢では、駅前の仮設通路やその他道路事業予定地の中で、限定的にイベントが行われています。これをこまかく見ていくと、実は2つのロジックの中で行われています。

1 ひとつは、『道路事業予定』として暫定的に空き地となった場所です。わたしたちのリンク・パークもこれにあたります。これは世田谷区道路事業推進課（そして北沢支所拠点整備課）が地元の商店街などに管理を委託しているものです。両方で結ばれた協定には行えることの内容や制約が書かれています。わたしたちはこの管理を任せられた一番街商店街と協働するかたちで、道路事業予定地でリンク・パークを開いています。

2 もうひとつは、駅前の仮設通路部分を利用したイベントです。こちらは世田谷区土木計画調整課から占用許可をもらうことで可能となります。ただし民間の団体がこれを行うには、世田谷区の後援名義が必要となります。地域での活動を評価され、公的な空間でそのイベントを行うことが相応しいかどうかをこの後援名義は担保することになります。わたしたちの例にすると、リンク・パークのイベントで仮設通路の占用許可を取る際には、北沢支所街づくり課から後援名義をいただいています。必要な書類を出せば誰でも占用許可が取れた方がいいようにも思えますが、公共空間の性質上、このような制約が設けられているのでしょう。（※この占用許可に警察は絡んでいません。）

この通路でのイベントに際して、いくつかの懸念があります。イベントによって後援名義を取るための区の課が違うことです。それは、イベント主体の性質の違いにあわせ致し方なくそうなっています。ですが、違う窓口で違うロジックで、同じ場所を別のイベントが使うことは、イベント同士で場所や日程の調整を難しくしています。なにしろ、お互いが違うロジックでやっているのですから。

行政も、市民の側も、それぞれがひとつのまとまりとなり、風通しよく、同じ仕組み、同じロジックでイベントをやれた方がいいのではないのでしょうか。

3

なぜひとつになるべきか？

ゴミのところで書いたように、これからの駅前広場の管理・維持には、費用がかかります。それを捻出する仕組みを考えなければなりません。例えば、広場で行われるイベントで費用を生むことができれば、それを広場の維持管理に使えるのではないのでしょうか。そのときに各イベントが別のロジックで行われているとしたら、お金に対しての考えに、齟齬が生まれてしまいます。これではせっかくできた広場がうまく運営できません。またイベントの内容についても、共通のコンセンサスが必要です。下北沢の駅前という公共空間ですから、イベント内容は駅前に実現させたい広場の性質と密接に関わってきます。コンセンサスをつくるためにもひとつになるべきです。

そこで、わたしたちから提案です

喫緊の課題である駅前のイベントやゴミ拾い活動について関わりのある多くの方と、まずは、ひとつにつながりませんか。そして区の側もどうか、それに対応するかたちで窓口をひとつにしてもらえないでしょうか。**下北沢のための連絡会**です。（図1）いま、これに取り組まなければ、広場が出来てから困ることになりかねません。いまが、これをスタートさせるタイミングです。

駅広部会では以前から、将来的な街づくりのために、街で活動するさまざまな団体がよこにつながり、**どこにもなかった下北沢でこそ実現できるあたらしい組織**（図2）をデザインすることを提案してきました。エリアマネジメントの枠にとらわれない、あたらしい組織です。あたらしい**下北沢スタイル**の街づくりといえるものを目指しています。

わたしたちが提案する連絡会（図1）は、将来的な街づくり（図2）の基盤となるものだと考えています。目の前の課題は、将来につながっています。下北沢のさまざまな立場のみなさん、ぜひ、わたしたちと一緒にこれに取り組みませんか？

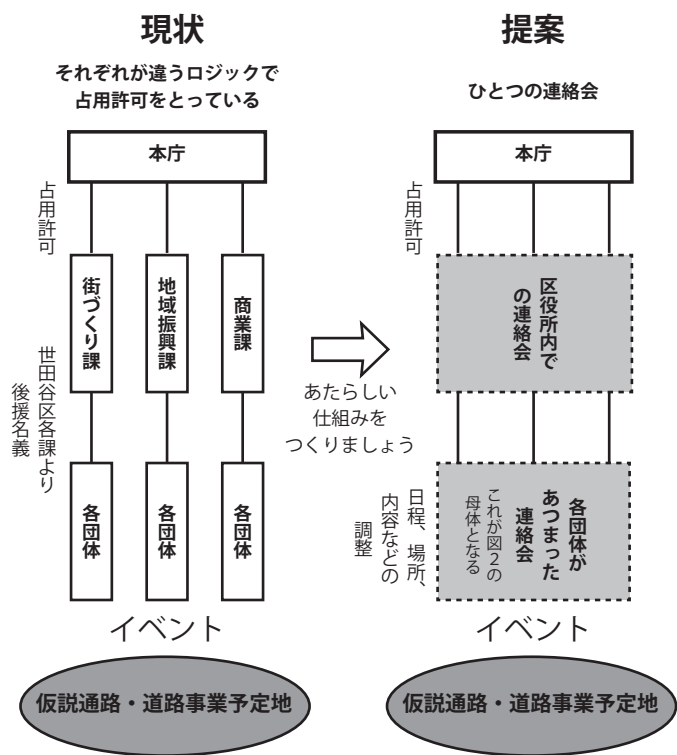


図1 あたらしい下北沢のための連絡会の提案

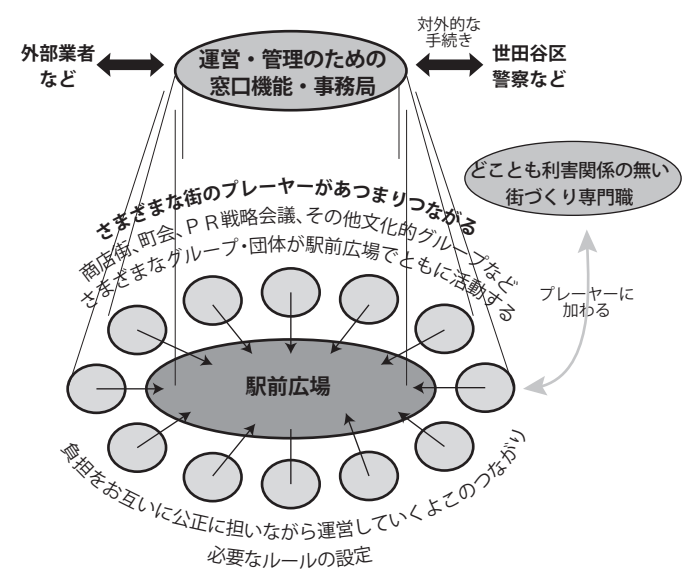


図2 将来の駅前広場運営のイメージ図

わたしたち北沢 PR 戦略会議一駅広部会は、将来の下北沢駅前にできる交通広場に対して、どのようにすればこれが交通機能にとどまらず、わたしたち誰もが快適に過ごせ、使える空間「駅前広場」になるのかを考えてきました。そして、いま暫定的な駅前の空間に目を向ける中で、いくつもの課題があることを街のさまざまな立場のみなさんと共有しています。この暫定利用の中での喫緊の課題を解決することは、将来の駅前広場で必要とされる仕組みや使い方の話につながってくると認識しています。まず、いま目の前にある課題から取り組み、きっと将来の街づくりにつながるはずだと考えます。

世田谷区へのお願い
 あたらしい提案は、現状をすぐに変えることが困難なさまざまな事情によって、簡単にはねのけられてしまいます。そうやって、なにも出来ないまま、工事が進むのを眺めているわけにもいきません。
 あたらしい提案をいまある場所で試すことが困難なら、**あたらしい提案を試すためのあたらしい場所**がつかれないでしょうか？実際に工事の進捗にあわせて、使えていた場所が無くなってしまっている場合もあります。それらを補填する意味もふくめ、**世田谷区さん、どうかわたしたちにあたらしく使える暫定の広場を提供してください。**わたしたちの連絡会でそれを管理・運営する実験を、将来のためにやらせてください。世区街 10 号予定地の中などどうでしょうか？仮設通路のイベントを減らすことは、通行の安全にもつながります。お願いいたします。

シモキタテーブル vol.5
 発行：駅広部会一北沢 PR 戦略会議 2020.12.12
 ※改訂版 2020.12.21
<http://shimokita-table.com/>
 下北沢リンク・パークの HP は Facebook 内にあります。ぜひご覧ください。
<https://www.facebook.com/shimokitazawalinkpark/>